

宮城県宮城野高等学校 鈴木幸恵

1. 主題設定の理由

急激に科学技術が進む現代社会において、文部科学省より STEAM 教育、領域横断的学びが推進され、総合的な探究の時間の学びを海外の高校生と共有したり、複数の異なる教科の教諭が一つの科目を作ったりなど様々な事例がある。その目的は各教科の特性を生かし、探究的な学習を統合、深化することで、先の読めない現代、将来をしなやかに生きる力を育成することとされている。一方で学校現場においても国際化がさらに進み、海外からオンラインでの国際交流の声がゆめも、特定の教科の担当者のみが運営に関わり、それ以外の教科の教諭が関わる場面が少ない。そのため、関わりの少ない教諭に国際交流の重要性が伝わりにくいという現実がある。筆者は 2022 年度より総合的な探究の時間において「アートマイル国際協働学習プロジェクト(一般財団法人ジャパンアートマイル)」を活用し、海外の高校生と SDGs に関する議論を深め、そこから生まれたイメージを協働で壁画に表現する活動を行っている。そこからヒントを得て、英語以外の授業においてオンラインで海外の高校生と共に教科の学びを深める機会があれば、英語を使って自らと海外の高校生の視点の比較、分析をし、自他への理解を深めながら、新たな視点で教科の内容を深められるのではないかと考えた。ここでは、2022 年から始めた上記プロジェクトでの気づきとともに、2023 年に単独で、2024 年に同僚の国語教諭、インドネシアの英語教諭と行った領域横断的授業について述べ、その可能性を明らかにしていく。

2. 実践の概要

筆者は 2022 年から現在、上記プロジェクトに取り組む中で、領域を越えた学び、海外の同世代と学びを深める可能性を感じ、普通の授業への導入を試みた。その広がりについて述べていきたい。

2. 1. アートマイル国際協働学習プロジェクト

筆者は表 1 にある海外のパートナー校と共にインターネット上のプラットフォーム、Zoom 等オンライン会議ツールを駆使し、SDGs のテーマについて議論を進めてきた。

実施年度	パートナー国	テーマ
2022 年	パキスタン	G11 住み続けられる街作りを G14,15 海、陸の豊かさを守ろう
2023 年	インドネシア	G6 安全な水とトイレ G9 産業と技術革新の基盤を作ろう
2024 年	サウジアラビア	G13 気候変動に具体的な対策を

表 1 2022 年から 2024 年のアートマイル国際協働学習プロジェクト概要

2022 年は相手側の担当教諭が一時不在になったり、会議中に頻繁に停電が起こったりと難点が多く、互いに調べた内容を Zoom で発表する活動に留まった。壁画に関しては大まかな方針を決め、それをもとに担当箇所イメージ画を塗布した。意見のやりとりを充実させることは出来なかったが、生徒にとって馴染みのないパキスタンの高校生と議論し、壁画を完成させるという活動は新鮮に感じられたようで、相手側の高校生が話す独特な英語への関心、恐れずに英語で自分を表現しなくてはいう

内省など多くの学びが見られた。中には「オンラインで教室を超えて自分を表現することを面白いと感じる新しい自分に気づき、嬉しかった。」と表現した生徒もおり、貴重な経験になったようだ。

2023 年も、担当教諭が地方へ出張で連絡が取れない時期が二週間ほどあり心配をしたが、それはむしろインドネシアの教育事情が抱える問題で、優秀な教員に多くの業務がのしかかっている現状が垣間見えた。中でもスライド、動画、Zoom を駆使し、双方から何度も疑問点、考えられる解決策のやりとりをし、議論が深まり、壁画には議論から生まれたイメージが十分に表現され、互いの思いが融合された作品となった（資料 1, 2）。活動当初は水問題等にあまり具体的なイメージを持っていない生徒が多かったが、インドネシアの高校生の口から学校では水道水は飲めない、ろ過した水を飲む、川にごみが捨てられる、学校までの道はプランテーション拡大のために泥だらけで、片道 2 時間を要するなどの現状を聞き、「自分達に考えられる解決策が、相手の解決策にはならない。」と感想を述べた生徒もいた。この活動の最期に完成した壁画を背景に、壁画に描かれた絵の要素について互いに Zoom で発表する機会を設け、一年の活動を振り返った（資料 3）。

2024 年は 6 時間という時差のために頻繁なやり取りが難しく、互いに調べた内容を Zoom で発表し合い、その後の質疑応答でやりとりを深め、問題点を迫及している（資料 4）。サウジアラビアは石油大国ということもあり、日本ではあまり耳にしない石油のリサイクル、バイオレメディエーションが話題に上がり、サボテン等の CAM 植物の活用、植物発電に議論が広がった。サウジアラビアの高校生の発表をきっかけに、生物教諭の力も借りながら筆者も生徒と共に学び、新しい発見を得ている。

これらの実践を振り返ると、メディアを通した情報ではなく、現地の同世代から想像も出来なかった情報を直接聞くことで、環境に関する危機感が高まり、自分たちの未来に意識が向いて来ている様子が見られる。また、英語力に関しては相手側の高校生と大きな差があったため、「伝えるため」、「繋がるため」の英語を身につけようと、発音等の音声面、アイコンタクト、笑顔などの非音声面を意識し、「英語力よりも伝えようという気持ちが大切」との感想も聞かれた。さらに経験を重ねる毎に、キーワードをヒントに難易度の高い話題に食らいついて行こうとする態度が見られている。

2. 2. 1. 領域横断的授業実践 1（日本と西洋の美の捉え方）

以上の経験から筆者は他教科での学びを英語の授業で再確認、復習する機会を作れるのではないかと考えた。2022 年 11 月、2 年次の生徒に、アイルランド出身の日本文学者が英語で百人一首を広めようとしているという話題から、日本と西洋の求める美の違いについて以下のような実践を行った。

Difference of Japanese esthetics and Western esthetics

Task 1 Talk with your friends and write what you notice between the two.

	Japanese esthetics	Western esthetics
1 Poem	・リズムがある ・文法規則性 ・句読点が多い	・簡潔 ・自然に比べて文学的、詩的 ・句読点が少ない ・韻みがある
2 Haiku	・季節の中心 ・具体的に書かない ・簡潔である	・石中心 ・色や匂い ・抽象的表現
3 Garden	・石や木の調子がいい ・静かな印象 ・和風	・木が中心 ・華やかな印象 ・西洋的庭園スタイル
4 Picture	・全体が暗い ・シルエット	・明るい印象 ・人物が中心

Task 2 What common words do you think of?

Japanese esthetics: 季節の中心、和風、静かな印象

Western esthetics: 石中心、色や匂い、華やかな印象

Task 3 What makes the difference between them? Write key words that you think of.

Japan: 自然、静かな印象

Western countries: 人物が中心、華やかな印象

Task 4 Describe your answer to the question (Task 3). Explain it to your partner.

On one hand, people play to the heavens to prevent disasters from occurring. In other words, nature is like Buddha or God in Japan.

On the other hand, I think there is a belief that humans are the ones who create nature in western countries.

Task 5 Give another example and draw pictures. Explain it in your group.

Japan: 自然、静かな印象

Western countries: 人物が中心、華やかな印象

図 1 日本と西洋の美の違いについてのワークシート

Task1&2 英文での内容理解後、生徒は4人グループを作り、筆者は日本と西洋の詩、家、庭園、絵を比較できるように順にスライドで生徒に示した。生徒は配布されたワークシートに、その比較によって気づいた点、日本側と西洋側で共通するイメージを記入した。

Task3 筆者が英語で「その違いは何だ？なぜだ？」と問いかけ、双方の自然との対峙の仕方を表す絵を見せた。生徒は友人と相談し、キーワードを記入した。生徒は一年次に現代文の「水の東西」という単元で、日本はアミニズム、西洋はキリスト教の影響で美しいと感じる対象が異なることを学んでいた。この辺りで数名の生徒が、「水の東西だ！」と声を上げ、一気に考えが浮かんだ様子だった。

Task5 最後に生徒は身の回りでその違いが反映されている事象を想像し、絵に表し、グループ内で描いた絵に関して英語で話し合った。

2. 2. 2. 領域横断的授業実践2（日本とインドネシアの英雄像）

これらの実践を経て、筆者は教室に海外の高校生の存在があることによって、日本の生徒側に学んだことを英語で発信する必要性が生まれ、学習内容の理解と主体的な学びが深まるのではないかと考えた。それをもとに、授業実践1を参観した同僚の国語と英語教諭、上記プロジェクトのインドネシアの英語教諭と協力し、2023年11月、Zoomを使用し領域横断的授業を2時間実践した（参考資料5）。この国語教諭は、平家物語の「木曾の最期」の場面をスキットで生徒に表現させることで、登場人物の心情理解を深め、そこから一般的な英雄像はどんな物かについて深めるという指導方針を持っていた。これをもとに1時間目は、Zoom上で生徒が平家物語、木曾義仲の最期の概要を英語で説明をした（資料6）。2時間目は、木曾義仲のまさに最期の死の場面を英語でスキットをした後（資料7）、スライドを使って両国の英雄像について数名ずつ発表した。日本側は木曾義仲が過去の英雄と言われているのに対し、現代の英雄として野球の大谷翔平選手、政治家などをあげ、過去、現在共に強さ、力といった男性的な要素を上げる生徒が多かった（資料8）。それに対し、インドネシア側で発表された5人の英雄像はオランダによる植民地時代に抵抗した、女性が教育を受けられなかった時代に学校に行ける機会を得て女性解放運動に貢献したなど、歴史を作り上げた人物が多く、性別による偏りが無かった（資料9）。発表後には、日本側からの「女性を英雄と考えるのは一般的なことなのか。」という質問に対し、インドネシア側からその点において男女の違いは全くないという回答が得られ、この点における日本との違いが明らかになった。

3. 生徒の変容と学校教育力向上の姿

以上の実践により生徒と学校全体に見られた変容と未来への展望を以下に示して行く。

3. 1. アートマイル国際協働学習プロジェクトによる変容

この活動を行った生徒の中には人とのコミュニケーションが得意ではない生徒もいたが、何度も海外の同世代とやりとりを繰り返す中で意識が変わったのか、他校での探究研究会でこの活動について発表したり、国際理解分野の高校生向けの全国大会でボランティアを行ったりと、以前と異なる行動が見られる。入学当初から入試を主な目標として地道に学業に励んできた生徒は、この活動を通して日本人の空気を読む習性に気付き、その研究を深めた。上記の全国大会で研究発表をしたところ、賞を得て、表現することの大切さを学んだようだ。一方、生徒の変容、活躍が目に見えることによって、同僚達の間には、生徒達の力をもっと信じてみようという声、領域横断的授業の可能性の模索、実践、それに賛同する声など、新しいものに挑戦してみようという空気が生まれていると感じる。

3. 2. 領域横断的授業実践1, 2による変容

前述の二つの授業実践は、校内外の関係者に公開し、参観者より感想を得ている。

実践1では、「教師からの問いかけ等によって、生徒が既習事項との関連を見出した時の表情、グループ内での活発なやり取りが非常に印象的であった。」との回答があった。また、国語教諭からの「あれは現代文の『水の東西』ですよ。」という質問から彼女の授業方針などの話題に広がり、翌年、協働で学びを生み出す機会になった。他にも「文学的な内容を英語で表現することで、日本人として知っておくべき知識といった異なる切り口になり、視点が変わる。」との感想も得られた。

授業実践2では、発表までの部分を担当した教諭から、「領域横断を行う中で、自分の国語という教科、単元におけるコンピテンシーをいつも以上に意識した。」との感想があり、普段よりも生徒の理解度を高めて発表に備えさせるという指導者側の責任、生徒の能力について言及があった。さらに、「生き生きと海外の生徒に日本文化を伝えようとしている姿がとても新鮮で良かった。生徒が考えたスキットは言語教育の一番大切な部分だった。」「英語をツールとして学びを深め、世界と繋がる。ラーニングゾーンを体現した授業だ。」「英語で古典を紹介するという発想が面白いし、日本文化の発信に繋がったと思う。」等、生徒が作り表現する言語活動、海外と繋がることの意義に関する感想が多く得られた。また、参加した生徒を対象に英語に関するアンケートを採り以下の結果を得た。

Q1 英語で外国人と話してみたいですか？

	もちろん	はい	チャンスがあれば	あまり話したくない	いいえ
事前	6%	12%	61%	21%	0%
事後	17%	30%	25%	17%	0%

Q2 英語で学校の友達と話してみたいですか？

	もちろん	はい	チャンスがあれば	あまり話したくない	いいえ
事前	9%	0%	38%	44%	9%
事後	9%	17%	48%	17%	9%

Q3 英語を今よりも使ってみたいと思いますか？

	もちろん	はい	チャンスがあれば	あまり話したくない	いいえ
事前	15%	29%	38%	15%	3%
事後	18%	41%	32%	9%	0%

Q1とQ2の「外国人、学校の友達（日本の周囲の友達）と英語を話してみたいか」との質問、Q3の「もっと使ってみたいか」の質問に前向きな変化が現れ、記述面では「同じ高校生として言語が通じ合えれば交流できるのだと分かった。」「英雄に関して共通の部分も違う部分もあった。」とあり、実際に英語を使って同世代同士一つの課題に取り組む面白さ、英語の利便性を感じている様子が伺えた。

4. まとめ

これらの実践により、知識が繋がっていく瞬間の喜び、他教科の内容を英語で表現することによる刺激、海外の同世代に発信することによる主体性、互いの共通点、違いを見つけて行く面白さを体験させることが出来たようだ。さらに、相手国の科学技術の発展、歴史的背景、ジェンダーに関する考え方など、日本との違いに触れられる機会が豊富である。これらも含め、今後さらに海外の同世代の存在によって日本の教室の生徒が領域を超えて想像を膨らませ、躍動的に活動することが期待できる。

参考資料



資料1 (左) 壁画塗布に取り組むインドネシア高校生



資料3 (右) 河北新報2024年5月6日掲載

完成した壁画を背景にオンラインで壁画に込めた思いを共有

資料2 (下) 一般財団法人ジャパンアートマイル協会より

外務大臣賞を受賞



資料4 サウジアラビア生徒とのZoomでの議論



Plan of Collaborative learning about horses between Indonesia and Japan

1. Zoom meeting for teachers

Date	October 26	Time	10:00' Breakout room for Japanese teachers
Participants	Letty Lenny, Shinta, Akiho, Shinta, Sh. Takahashi		
Content	Letty Lenny about what we want for students to be prepared for the lesson give examples of Indonesian horses with pictures and think about what are important elements of attractive text cases for Indonesian students. For example, "Hippo" and a attractive for Indonesian.		
Notes of session	Letty Lenny, Shinta and Letty of Zoom meeting, and Sh. Takahashi notes on November 20.		

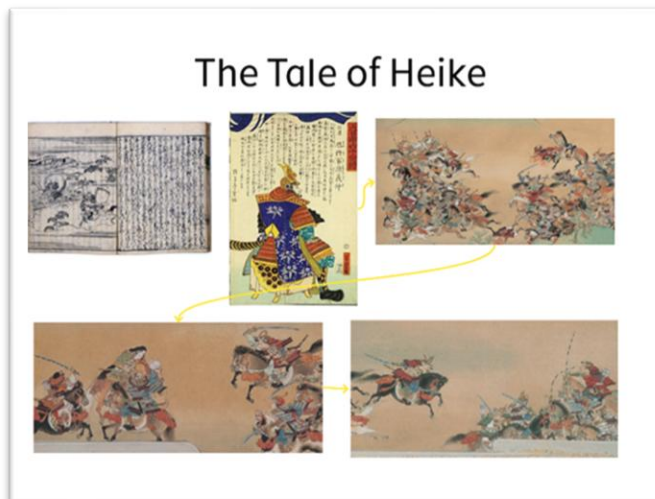
2. Zoom lesson for new special lesson (About 20 minutes)

Date	November 20	Time	10:00 - 10:20
Participants	Indonesian students: Indonesian students Letty Lenny, Shinta, Akiho, Sh. Takahashi and Letty		
Lesson Plan	Zoom Lesson		
Objectives	Learning to English, Indonesian and Chinese		
Materials	Teacher: self-introduction in English or Chinese		
Activities	Teacher's meeting to give a lesson for November 20. I would like you to listen to a presentation about a Japanese classical literature called "The Tale of Heike".		
Assessment	Students to give a presentation on their own about one of the characters of the tale. "Yoshitsune". The score is about 100 points for each.		
Resources	Students: all of the original text of the lesson.		
Reflection	Students to give a presentation about the Indonesian aspects and what are important elements of attractive text.		
Total	20		

If we cannot have this lesson through Zoom, I will record their presentation. Then Indonesian students will watch them when they have time for a while.

3. Zoom special lesson (About 47 minutes)

Date	November 20	Time	10:20 - 11:07
Participants	Indonesian students: Indonesian students Letty Lenny, Shinta, Akiho, Sh. Takahashi and Letty		
Lesson Plan	Zoom Lesson		
Objectives	Learning to English, Indonesian and Chinese		
Materials	Teacher: self-introduction in English or Chinese		
Activities	Teacher's meeting to give a lesson for November 20. I would like you to listen to a presentation about a Japanese classical literature called "The Tale of Heike".		
Assessment	Students to give a presentation on their own about one of the characters of the tale. "Yoshitsune". The score is about 100 points for each.		
Resources	Students: all of the original text of the lesson.		
Reflection	Students to give a presentation about the Indonesian aspects and what are important elements of attractive text.		
Total	47		



資料5(左) インドネシア教諭との打合せ資料

資料6(右) 平家物語の説明で使用したスライド



資料7(左) 河北新報 2024年11月14日掲載

資料8(右) 日本の生徒の英雄像のスライド

資料9 インドネシアの生徒の英雄像のスライド

